

日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだいにユース

発行所 福岡市中央区天神一丁目西日本新聞会館十四階

集団力学研究所内・日本グループ・ダイナミックス学会

発行人 三隅 不二 編集担当 黒川正流

1993年11月30日
第2号

肥後路の四十一回大会終わる

役員選出規定など大改訂を議決

議論白熱の仮総会

シンポは「これからの集団研究のあり方」

【肥後路の秋の大会が盛會裡に終了した。二日間で八十二件の個人発表、熱のこもったシンポとワーク・ショッパからなるアカデミック・アウトカム、馬刺しと芥子蓮根に合う焼酎湯割りに舌鼓、しかしもう一つの特記事項は学会若返りを目指す会則の大改正。降り出した道らずの雨に熊本駅と阿蘇の熊本空港に残した会員の心を汲んで、鈴木委員長に今大会を総括していただいた。】

大会開催報告記

第四十一回大会委員長 鈴木康平

本学会第四十一回大会は十月十六日（土）、十七日（日）の両日熊本大学において秋の天候にも恵まれて、約二百人の参加者を迎えて開催された。

研究発表日程に先立つ十五日夕刻より、熊本大学教育学部会議室において、研究奨励賞選考委員会、理事会、編集委員会の各会議が開催された。それぞれの委員会で白熱した議論が展開された。研究奨励賞選考委員会では、グループ・ダイナミックス学会にふさわしい研究とは何かを中心に慎重な選考が進められ、また

理事会では、会則改正とりわけ、役員選出規定の改正を中心としたところに焦点を合わせ、白熱した議論が交わされた。学会役員に若い血を注入し易いような選挙方法が真剣に考究され、結局、役員選挙に年齢の条件を付帯条項とすること、全国区の選出人員、地方区の人員配分の変更を主たる変更点として、会則改正が理事会提案として総会に提出されることになった。

翌十六日、教育学部二階の教室を発表会場としてシヨート・スピーチ・セッション四部門二十四題、パネル・セッション二部門十六題、ロング・スピーチ・セッション四題が発表された。シヨート・セッション、ロング・セッションではいずれの会場でも、討論時間一杯に真剣な議論が飛び交った。パネル・セッションでは会場を思い切つて広く取ったつもりであったが、それでも熱意にあふれた会場の雰囲気はその広さをぜんぜん感じさせなかった。研究発表者と質問者の直のきめ細かなやりとりが可能なのが、この種の発表形式に関心が向けられる所以でもある。

ついで、昼食時、学会総会が同じく教

育学部五階の五七〇教室で開催された。慣例の議題、報告事項にまじつて、今総会で異色であったのは、前夜の理事会で白熱した議論の末提案された会則改正と、来年度のレヴィン賞に本学会会長三隅不二氏の受賞が確定したとの報告である。前者すなわち会則改正の議案は中村陽吉常任委員の提案理由の説明に次ぎ、幾つもの質疑意見交換が行われた後、今後さらに細部にわたる検討を続けることを含んだ上で、理事会提案原案通りの条文を採択、これからの学会の益々の活性化に向けて、記念すべき第一歩をふみだした総会となった。ただし定員に充足しないため仮総会となった。全会員に文書で報告した後一ヶ月のうちに会員から正規の手続きに従った異論が寄せられなければ、正式決定の運びとなる。後者すなわち、三隅氏の来年度レヴィン賞受賞決定の報告は出席会員の惜しみない拍手によって迎えられた。全会員の誇りでもある。

重要議題を盛り込んだ活気に満ちた総会が二十分ほど予定時間を越えたので、シンポジウムは十分の休憩・準備時間を挿入しただけで、その場で開始された。本学会大会の中心をなすセッションである。我々準備委員は、学会大会の中身のあり方について、真剣に議論を重ねたが、なかでも学会大会に恒例の講演、特別企画行事等幾つも模索してみた。しかし、今回は、思い切つて長時間かけてシンポジウム一つに絞ろうということで、徹底した議論を展開してみようというところに落ち着いた。当初計画は十三時四十分から十七時三十分までの三時間五十分であった。総会で二十分食い込んだが、それでも三時間三十分であった。「これからの集団研究のあり方を求めて」話題提供者に木下富雄氏、永田良昭氏、山岸俊男氏、杉万俊夫氏、坂元章氏の各氏に話題提供を行っていただき、指定討論者に三隅不二氏、廣田君美氏にあたっていたいただき、司会を鈴木がつとめた。

（以下四ページに続く）

『会則・細則の改正』 仮総会が可決承認

二十歳代・三十歳代の理事の選出促進・・・◆解説◆

【十月十六日に熊本大学で行われた日本グループ・ダイナミックス学会総会は、満員の参加者にもかかわらず（定足数を正会員の過半数とすることが問題か？）仮総会となった。質疑討論の後に可決された会則と細則の改正案は、他の事項の審議結果とともに全会員に通知され、その後一月以内に会員の過半数の反対が文書で寄せられない場合に成立することになっているので、ぐるだニュース編集部で文責で改訂内容の解説を試みる。】

今回の改訂の主要部分は、学会運営組織の見直しと役員選出方法の改正である。研究活動の第一線に立つ若手会員の意向を学会運営に反映させやすい体制の確立が基底のねらいである。

「実験社会心理学研究」の投稿論文の審査方法の見直し、事務局移転・事務合理化に伴う会費を中心とする経理の確立、といった会員に直接関係する事項の改訂は今回は提案を見送られた。

改正点を重要と思われるものから述べると以下のとおりである。

◎ 役員の定数と任期

連続就任は二期までで交代

役員の総数を理事二十二名と監査二名の計二十四名にした。理事の内訳は普通の理事十五名と常任理事七名（この中に会長一名と場合によっては副会長一名が含まれる。副会長は選出されないこともあり得る）の計二十二名である。（会則七条）

理事の任期は役員改選年度の大会の翌日から翌々年の大会終了日までとされ、この間概ね二年である。理事は引き続き二期を超えて就任できない。一年以上休めばまた選出されることが出来る。ただし、会長は就任予定期の直前期の常任理

事から選出することになったため（細則一九条三項（b））、会長に就任した者については理事連続就任制限を三期までとした。この場合に考えられる就任パターンは、「常任理事→会長→会長」「常任理事→会長→（常任）理事」「（常任）理事→常任理事→会長」のいずれかということになる。（会則九条）

◎ 役員選出方法の大改正

自分の地区理事一人と全国区

役員選出規定改訂の骨子は、①全国区と地方区の選挙区分、および地区区分の見直し、②選挙実施期の常任理事の中から全有権者による会長の直接選挙、③四十歳未満の若手理事の選出、④選挙にやらない理事の補充、⑤これらに伴う選挙方法の改正、の五項目といつてよいであろう（細則一九条、同二十二条）。

プロジェクト委員会（中村委員長）で検討され常任理事会から提案検討された理事の六十五歳定年制は、実情にそぐわず手続的にも難点がある等の反論が強く、総会前の理事会で否決された。

① 地区割の改正と全国区理事の新設

現行では全有権者がすべての地区の理事を投票することになっている。例えば北海道の会員が北海道・東北地区だけでなく他の五地区の理事をそれぞれの地区の会員から投票するわけであり、自分の所属地区はともかく他地区の会員の地区活動はわかりにくかった。

改訂案では、地区別理事については各人が自分の所属地区についてのみ投票する。そのかわり所属地区に関わりなく一名の会長理事と四名連記で計九名の全国区理事を選挙することになる。地区別定数の制約に縛られずに熱意ある人材を全会員の中から選出できることになる。地

区分は地区別会員の均等性にとらわれず、研究会の実施などの実質的な学会活動の容易性を重視して、北海道地区と沖縄地区をそれぞれ分離独立させて八地区に再編した。地区ごとに理事を各一名割り当て、さらに会員の多い関東地区と近畿地区にそれぞれ一名を加えて、地区別理事は計十名とされた。

② 会員の直接選挙による会長選出

会長は従来は理事の互選によっていたが、会員の直接選挙で選ぶよう改訂された。ただ、役員経験のない者がいきなり会長に選出されるなどの混乱を避けるため、就任する前の期（選挙が実施される期）に常任理事である者を候補者として、会長の連続就任は最長二期約四年となる。前述の連続就任制限条項のため、会長の連続就任は最長二期約四年となる。選挙で会長に当選しなかった者の「会長としての得票」は、その者が連続就任制限に抵触しない限り「全国区理事としての得票」に加算される。

③ 三十代以下の若手理事の選出促進

学会の活性化のために役員の若返りを強力に進めたのが今回の改訂の重要な特徴である。具体的には、全国区理事として「自分の間」三十歳代以下を最低限四名選出することとした。会長以外の全国区理事は四名連記で計九名が当選者となる。連記する四名のうち二名以上は投票時点で四十歳未満の会員の記載しなければならぬ。

全国区理事の当選決定は、前述の「当選しなかった者の会長票」を「全国区理事の得票」に加えて、得票順に九名とする。ただし、得票上位九名中に四十歳未満者が四名に達しなかった場合は、得票者を四十歳未満と四十歳以上にわけ、四十歳未満だけの得票順に四名、四十歳以上だけの得票順に五名を当選者とする。全体の得票上位九名に若手が四名以上含まれていれば（仮に九名とも四十歳未満でも）そのまま当選とされる。

地区別理事は地区研究活動の推進者であり（会則八条四項）、年齢にとらわれない適任者の選出が期待される。

この若手登用促進条項は、学会運営に若手が積極的に関与することが会員の意識に普及するまでの「自分の間」という期限がつけられている。

④ 選挙によらない役員を選任・補充

会員の選挙による理事は、地区別理事十名と全国区理事九名および会長一名の計二十名である。この二十名の他に、会長は当該十九名の選挙選出理事と協議して正会員の中からさらに二名を指名することとした。したがって全理事数は二十二名となる。役員の年齢・地区・分野など諸々の属性を考慮して、適正な役員構成による学会運営を図る方策である。（細則一九条（項））

通常の会務執行にあたるべき常任理事の定数は七名であるが、うち一名は会長であり、理事の互選により他の四名を決定する。会長はこれら四名の常任理事と協議して、さらに理事（二十二名から既に常任理事となった五名を除く十七名）の中から常任理事二名を指名する。趣旨は前記理事指名と同意であり、役員構成に会長の意向が大きく反映される余地がつくられたと言える。

さらに、会長が運営上必要と認めたときは常任理事会に事務局担当副会長の互選を求めることができるものとした。会長の所属機関と学会事務局の所在が異なる事態も生じ得るための方策であり、副会長が選任されないこともある。

⑤ 投票方法と当選者決定方法

現行にくらべて役員選出単位が多様化したため、選挙方法も変更される。理事会に指名された選挙管理会は、従前通り役員改選年度（次回は一九九四年度）の投票日前三月以内の会員名簿によって選挙台帳を作成する。今回の名簿作成に伴う会員への事務局からの問い合わせには、

現行の会員名簿記載事項の他に、投票締切日（現時点では未定であるが、問い合わせには明記される。九十四年春以降）において四十歳以上であるか否かの項目が加えられる。この事項への回答がない場合は不利に判定分類されることもあるので注意が肝要である。

投票前に有権者である正会員に送付される選挙台帳には、

(ア) 投票締切日における会長および常任理事で連続就任期数が一期目の者と二期目の者の氏名、(イ) 地区別および投票締切日において四十歳未満であるか四十歳以上であるかの区分を付記した正会員の氏名、が記載される（前年度までの会費未納者は原則として除かれる）。

投票用紙には (a) 会長候補一名分、(b) 全国区理事の四十歳未満候補二名分と年齢にかかわらず候補二名分、(c) 地区別理事一名分、および (d) 監査一名分の記載欄が設けられる。会長は (ア) の常任理事から、全国区理事は (イ) の四十歳未満会員から二名をまず記載し、それから (ア) の連続二期目を記載する。地区別理事は投票者の属する地区の全正会員から選ぶ。監査は連続就任期制限がないので、正会員全員が候補者となる。

こうして有権者は会長一名、全国区理事四名、地区別理事一名、監査一名の計七名を投票することになる。現行規定では六つの地区別に計二十名の理事と監査一名を記入することになっているが、改訂案では投票用紙に記載すべき人数が三分の一になる。

地区別理事の任務として所属地区の研究活動推進者の役割が明記されたのに伴い、全国区と地区別の両方の理事に当選した場合は地区選出の当選を優先することとした。地区別理事が任期中に所属地区を移動した場合は理事の資格を失うことになり、その場合、就任期間が一年未満の場合に限り選挙の次点者をもって補うこととなる。

うこととなる。

◎就任制限適用は次々回からの移行措置

このように、理事の連続就任制限（会則九条）と会長候補資格の直前期の常任理事への限定（細則一九条b項）が定められたが、これらの規定は現在の役員には遡及しない。したがって九四年度の役員改選では、会長は会員の直接選挙ではなく従前通り理事の互選で選ばれる。また全国区理事は十名選出される。

◎「若手の研究奨励」事業項目の追加

若手研究者に魅力を感じさせる学会への改革という精神は、役員選出規定の改訂に盛り込まれたが、さらに本会の事業に「若手研究者の研究活動の奨励事業」の項が追加された（会則四条七項）。また、大会時の総会で行うべき事項に「研究奨励賞の審査経過報告と授与」が加えられた（細則十二条五項）。

◎入会手続きの小改訂・あなたは若い？

役員選出規定に会員の年齢がかかわってくる（細則一九条）から、入会申し込みの書式を制定することとした。入会希望者は正会員一名の推薦と経歴資料の他に、生年または既に四十歳を越えているか否かといった必要最少限の判断手がかりの記入を求められることになろう（会則六条）。入会審査は理事会の仕事であるが、実際は理事会の委託を受けて常任理事会が行うのは従来と同じである。

◎名誉会員は正会員

定義と会費免除を明記

これまで本会の会員は、正会員、名誉会員、賛助会員となっており、本会の功労者である名誉会員は正会員と対置されているが、その特典や役員選出にかかわる権利が明記されていなかった。改訂案では名誉会員は正会員であることと、名誉会員の会費を徴収しないことが明記された（会則五条）。名誉会員はいわば

正会員の称号と考えられ、正会員としての権利を有することは当然である。

◆改訂提案が先送りされた事項

◎改訂必至の年会費と事務局移動

一九七四年に牛島義友前会長からバトンを受け継いだ三隅現会長が今期限りで会長勇退の意向を示され、九四年度には新しい会長誕生の可能性が大となっている。本会の事務局は永年にわたって財団法人集団力学研究所（三隅所長）に依存している。煩雑な学会事務と経理管理は、これまでほぼ全面的に事務局員（高崎さんや三角さん）の献身によっている。また機関誌「実験社会心理学研究」の廉価な印刷発行の維持は、鈴木康平理事をはじめとする熊本大学の会員の不断の努力に負っている。

現状のままでは他の機関が事務局を引き受けることは困難であるとの認識のもとに、常任理事会は可能な限り事務を学会事務センターなどに外注することを検討しているが、具体化は次期理事会の責務になりそうである。

新しい役員が学会運営に腕をふるうには、定型業務の外注など学会事務の合理化が不可欠であり、現在年四千円の会費の値上げは避けられない見通しである。

◎機関誌編集体制の見直し

機関誌「実験社会心理学研究」の編集については投稿論文の審査体制と編集責任者の責任のあり方、英文号の国際的編集体制などの問題が本年一月末のプロジェクト委員会で取り上げられた。これを承けて機関誌編集組織と理事会の関係、海外へのPRなどについて特設小委員会が検討を続けてきたが、今回の会則改正提案は見送られた。JSPなど海外研究誌への広告出稿、外国人講読者のクレジット・カードによる支払いなど、一部具体的な事項は検討されているので、近々規定改訂が提案されることになろう。

◎第六回研究奨励賞は池上知子氏◎
平成五年度の日本グループ・ダイナミックス学会研究奨励賞は愛知教育大学助教授池上知子氏の英文論文に与えられることになった。選考経過はつぎの通り。

「研究奨励賞」選考経過

選考委員会委員長 中村陽吉
「実験社会心理学研究」三二巻一、二、三号に掲載された研究論文の内、選考委員会規定に準拠して選考の対象になり得る論文八編について定められた手順で選考を進め、絞り込まれた数編についてさらに慎重に、かつ公平を期して研究内容を中心に検討した結果、三二巻三二、三三巻三二、三三巻三三に掲載の池上知子さん（愛知教育大学所属）による Negative affect and social cognition - The differential effects of self-referent vs. other-referent emotional priming on impression formation. が今年度の奨励賞に値するものと決定した。

（内容紹介略）この論文は限られた問題についての実験研究であるから、大きな飛躍や斬新な問題へのチャレンジという観点での魅力は十分とはいえないが、従来の理論や実験結果をシステムティックに検討し、その結果と直結した形で研究目的を絞り込み、予備実験から本実験へと入念に、しかもそつなく展開させ、実験方法も目的に沿った無駄のないものであり、オーソドックスで着実に問題を詰めていく手堅い実験研究であると評価された。英文も正しく読みやすいもので、全般に説得力のあるきれいな論文という印象であった。なお、この論文以外にも、将来の展開に希望をもたせる挑戦的な研究や応用力のある研究など立派なものがあったが、受賞論文は一篇にかながられているため残念ながら見送らざるをえなかった。（注・若手研究者という範疇は、三五歳を区切りとしているが、この判定は論文が学会事務局に送付された時点に拠っている）。

(一ページから続く)

演者それぞれの視点からの集団研究の方法論の要に迫る鋭い考察と、指定討論者の理路整然とし、かつ熱情あふれるコメントに直接に接し、集団研究のヌーヴェル・ヴァーグとなることを心から願った準備委員会にとって、素晴らしいセッションとなった。なお欲を言えば「もっとも」と時間が欲しかった！この一言に尽きる。二日間にわたって徹底して論ずるに十分値するテーマであり、内容であった。

シンポジウム終了の後、学内生協食堂で懇親会を開いた。熊本名物の馬刺しと芥子蓮根、それに阿蘇地方名産の高菜漬などを添え、さらに、おにぎり、おにしめなど、学生食堂ならではのおふくろの味なども添えて、熊本の一晩を楽しんでいただいた。アルコールはビールはもちろんだが、熊本ではやはり「焼酎」、そのお湯割りのうま味を味わっていただいた会員からは好評の声が寄せられた。第二日目は午前中ショート・スピーチ・セッション三部門十八題、ロング・スピーチ・セッション四題、パネル・セッション二部門十六題が発表された。昼食をはさみワークショップ「ゲームシミュレーション」と社会心理学」一題が行われ、関心を持つ会員の参加を得て体験場面を織り込みながら活発に議論が展開された。

準備委員一同この大会に向け最大の努力を払ってきたつもりであったが、会員各位のご期待に十分沿い得たかどうか案じている。会員各位のご満足が得られたとすれば、もちろんそれは会員各位の積極的なご参加による多くの発表があったればこそであり、準備委員として心からお礼申し上げるべきものである。「手作りの味のする」大会だったとお言葉をいただき嬉しく感じ、準備の疲れも一気に吹き飛んでいった。

西年における南国肥後の国での第四十一会大会がまさにその干支のように、学会のこれからの更なる飛翔への羽ばたき

となってくれたとしたら、準備委員一同これに勝る喜びはない。

改めて、この大会に参加された会員各位、大会の賛助をしてくださった各機関・企業に心からお礼申し上げこの稿を閉じることとする。

☆各地の研究会だより☆

「日本の感覚の自己と集団」についての研究会(JSSG)のご案内

「自己」や「集団」の心理的過程に関する社会心理学的研究が欧米で盛んに行われ、その追試やさらに展開した研究がわが国でも数多く行われるようになりました。そこで、このたび、わが国での研究結果と欧米の結果を比較検討し、その中から「日本の感覚での自己過程、集団過程」の特徴を浮かび上がらせることを目的とした研究会を発足させることになりました。第一回例会は十一月十六日、四十数名の参加者が学習院大学に集い、山口勸氏(東京大学)の発表「日本人の公正観」に関して議論を行いました。今後、二ヶ月に一度のペースで研究会を開く予定です。関心のある方は事務局(立教大学文学部心理学研究室山岡重行氏 03-395-584)までご連絡ください。呼びかけ人：安藤清志・押見輝男・中村陽吉・山口勸(五十音順)

◎GD学会員の紀要等発表論文題目

○今井芳昭・社会的勢力に関連する研究の流れ：尺度化、影響手段、勢力動機、勢力変性効果、そして、社会的影響行動モデル 1993 流通経済大学社会学部論叢、三、三九一六六。

○島 久洋・医学教育が医師の資質の評価に及ぼす効果 1993 桃山学院大学、人間科学、四、六五九一。・維吾爾族と哈萨克族の生活と意識 1993 桃山学院大学、国際文化論集、七、三三三六。・能面の表情の知覚における交叉文化的類似と相違 1993 桃山学院大学、国際文化

論集、八、三一三十。・戦後ブラジル移民の「若い」イメージ 1993 桃山学院大学、人間科学、五(印刷中)

★来年の大会は九州大学で

会長と副会長の共同主催

日本グループ・ダイナミックス学会第四十二回大会は一九九四年十月二十二日と二十三日(土・日)の両日、九州大学教育学部を会場として開催される。

大会委員長は三隅二不筑紫女学園大学学長、同副委員長は狩野素明九州大学教育学部教授となっているが、事実上は三隅氏と狩野氏の共催という形で運営されるもよう。

★日本社会心理学会

九四年度の第三十五回大会は十月十一日(月・祝)、関西大学社会学部に、廣田君美理事長が大会委員長。

★産業・組織心理学会第十回大会

九四年九月十七・十八日(土・日)早稲田大学国際会議場にて開催。

★日本心理学会第五十八回大会

十月二・三・四日(日・月・火)、日本大学文学部にて、大村政男委員長

★第二十三回国際応用心理学会議

七月十七・二十一日(日・金)、The Congress Palace, Paseo de la Castellana, 99 28064 - Madrid

教官公募

広島大学総合科学部では社会心理学担当の教授または助教授を公募しています。学部の社会心理学関連科目と大学院博士課程の指導の担当が予定されます。公募の締切日は十二月十日(金)必着です。詳細は電話〇八二四二四一六五七九の黒川までお問い合わせください。

[illegible]

編集後記

*学会ラッシュも一段落、ほっと一息と思っていたらあつという間に十一月も下旬に突入してしまい、あせる今日この頃です。先日はヴァイタルな対人研に初参加させてもらいました。(桐)

*総会に参加されなかった会員のご参考までに、会則改正の解説を試みました。

*選挙制度の改革は細川さんよりこちらが先だと密やかな自己高揚・(公言すれば密やかではないか)

*本紙号外を利用して投稿をお願いしました。座してただ待つストラテジーは見事失敗。地域別研究会も、自著をよろしく!も、紀要等一般の目に触れにくい論文題目も、会員諸氏の投稿はほとんどありません。今井さんと島さんに感謝します。例によって突撃的原稿依頼に応じてくださった東女大の安藤さんにも。

*会員移動多数。年賀状宛名を書く前に本紙必読のこと。

*郵便料金値上げのニュース。往復葉書の取材は予算が窮屈。いつそ執行部が「ぐるだいいニュース」の廃刊を決定してくれないかなア、などと考えるはいけませんよネ。(黒)